

特集

実習指導
虎の巻

医療の高度化、在院日数短縮化などの医療環境の変化、実習以外の講義科目の増加、看護系大学の急増に伴う実習施設確保の問題、教員不足のなど、実習指導の環境が大きく変化しています。特に、大学の増加は、あまり臨床、指導経験をつまれていない若手の教員が実習指導で学生と向き合うことを意味しています。こうした若手の教員に対し、実習指導のあり方や方法などについて、サポート体制もなかなか整っていません。そこで本特集では、4部構成にて、さまざまな角度から、経験の浅い先生方へ、実習指導について考えるヒントとなることをめざします。

第1部「実習指導で大切なこと」では、指導経験豊かな先生方を中心に、実習指導の魅力やあり方について、語っていただきます。

第2部「ここが知りたい実習指導」では、実習指導について疑問とされる内容に、多様なお立場の先生から、具体的な事例も交えて解決策をご提案いただきます。

また、実習では実習施設との協働が欠かせません。第3部「実習施設との協働」では、病院側の指導者の方々に、実習にあたって、教員へお伝えしたいことをご執筆いただきます。

そして第4部「実習指導の理解をさらに深める」では、弊社から実習指導についての書籍を刊行されたばかりの先生方に、著作の意図、狙いをご解説いただきます。

看護が、マニュアル通りにいかず臨機応変な対応が求められるように、実習も、もちろん実習指導も、型通りにはいきません。そうしたとき、本特集にご登場いただいた多くの先生方のお声や豊富な事例が、みなさまの実践の支えとなることを期待しています。